

クロメート2級黄色皮膜(CM2 C)の同等性試験法規格

(公財) 日本住宅・木材技術センター

1 適用範囲

本試験法規格は、(公財) 日本住宅・木材技術センター (以下、「当センター」という。) 規格の接合金物認定の技術基準で定める使用環境2「JIS H 8625 (電気亜鉛めっき及び電気カドミウムめっき上のクロメート皮膜) 2級黄色皮膜 (CM2 C)」と同等以上の処理を評価することを目的とする。

2 試験体

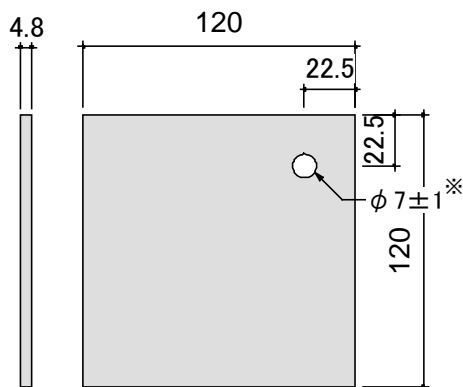
2.1 供試材料の仕様

試験体に使用する金属板又は角座金等は、以下の各項目に適合するものとする。

1) 金属板又は角座金等

(1) 金属板

金属板の形状は、図1による。



※: 表面処理を行うための吊り下げ用の孔

寸法許容差

| 長さ | 幅 | 板厚 |
|----|----|-------|
| ±2 | ±2 | ±0.35 |

※寸法は、表面処理前のものとする

図1 金属板の形状 (単位: mm)

(2) 角座金

角座金の形状は、Zマーク表示金物とする。

(3) その他の金物

当センターと協議して決定するものとする。

2) 金属板又は角座金等の表面処理と材料

金属板又は角座金等の表面処理と材料は、表1による。

表1 供試体の表面処理と材料

| 種類 | 表面処理と材料 | | |
|------------|----------------------|--|---|
| 金属板 角座金 | 表面処理 | 皮膜 | JIS H 8625 (電気亜鉛めっき及び電気カドミウムめっき上のクロメート皮膜) CM2 C 以外の皮膜 |
| | | 電気亜鉛めっき | JIS H 8610 (電気亜鉛めっき) 3級 |
| | 板の材料 | SPHC : JIS G 3131 (熱間圧軟延鋼板及び鋼帯) 又は SPCC : JIS G 3141 (冷間圧延鋼板及び鋼帯) | |
| その他の金物 | 当センターと協議して決定するものとする。 | | |

3) 金属板又は角座金等の検査

金属板又は角座金等は、試験前に表 2 の検査方法及び判定基準で確認し記録する。

表 2 検査方法及び判定基準

| 検査項目 | | 検査方法 | 判定基準 |
|------------|----------------------|--|-----------------------------|
| 金属板 角座金 | 寸法 | 寸法測定は、マイクロメーター(精度 0.01 mm以上)及びノギス(精度 0.1 mm以上)で測定する。 | 図 1 又は Z マーク表示金物の寸法を満足すること。 |
| その他の金物 | 当センターと協議して決定するものとする。 | | |

3 皮膜の耐食性試験

金属板又は角座金等の耐食性試験は、当センターにおいて JIS H 8502 に規定する中性塩水噴霧試験法によって行う。

1) 金属板又は角座金等の試料数

試験の試料数は、金属板又は角座金等は 3 枚とする。

2) 試料の配置と観察

金属板又は角座金等は、糸（ビニルひも又は不活性な絶縁体）を用いてガラス棒又は合成樹脂の棒に吊し、試験槽内にぶら下げる。ただし、皮膜が糸による摩耗の影響を受けないように、糸を通す孔の周囲にはコーティング塗料の塗膜等を行うものとする。

試料間の距離は、試験期間中互いに接触しないように十分な間隔を空ける。

塩水噴霧試験の観察時間は、表 3 に示す時間とするが可能な限り外観を毎日観察する。

表 3 観察時間と観察内容等

| 観察時間 | 観察内容 | 試験継続の判断 |
|--------|----------------------|---|
| 72 時間後 | 表面の生成物など外観を観察して記録する。 | 金属板又は角座金等が 72 時間未満に白色腐食生成物が発生した場合は、塩水噴霧試験を終了してよい。 |

参考

JIS H 8502 (めっきの耐食性試験方法) -1999

JIS H 8610 (電気亜鉛めっき) -1999

JIS H 8625 (電気亜鉛めっき及び電気カドミウムめっき上のクロメート皮膜) -1993

JIS Z 2371 (塩水噴霧試験方法) -2015

JIS G 3131 (熱間圧延鋼板及び鋼帯) -2018

JIS G 3141 (冷間圧延鋼板及び鋼帯) -2021

以上

制定 令和 3 年 4 月 1 日 住木認発第 57 号

改定 令和 5 年 12 月 11 日 住木認発第 191 号